

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔科学 第73回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

歯周組織再生を支える分子基盤 -サイトカイン療法が変える歯周組織 再生療法の未来-

村上 伸也先生

大阪大学 大学院歯学研究科 口腔分子免疫制御学講座
歯周病分子病態学・歯周病診断制御学 教授

平成25年10月28日(月)17:30~19:00

B棟1F B1講義室

我々の研究室では、強力な血管新生作用と間葉系細胞の増殖誘導能を有する塩基性線維芽細胞増殖因子(FGF-2)を歯周外科時に歯槽骨欠損部に局所投与することにより、歯周病により失われた歯周組織の再生を人為的に誘導・促進する新規歯周組織再生療法の開発に取り組んできた。2005年6月から、ヒトの2壁性および3壁性歯槽骨欠損を対象とした臨床試験(用量反応試験)が全国の施設で実施され、0.3%のFGF-2を含有する治験薬の局所投与が、規格レントゲン写真上で統計学的に有意な歯槽骨新生を誘導することが確認された。

今回の講演では、FGF-2に関する臨床研究と作用機序に関する研究成果を報告させていただくと共に、今後どのようにサイトカイン療法や幹細胞移植治療が評価され歯周治療の分野に根付いていくのか、また現在残されている課題は何かについて、先生方と討論させていただきたい。